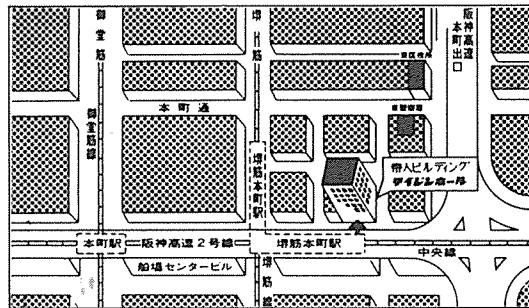
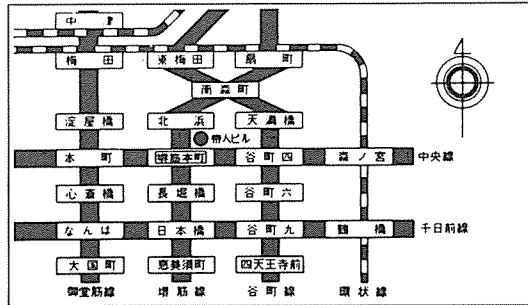


# 第11回近畿川崎病研究会

日時 昭和62年2月21日(土)  
14:00~18:30

会場 テイジンホール  
大阪市東区南本町1丁目11番地  
TEL 06(268)3131~3132

## 帝人ビルディングテイジンホールご案内地図



●地下鉄中央線・堺筋線の堺筋本町駅東出口から専用通路がございます。(東側2号出口)

# 近畿川崎病研究会

## 運営委員長

清沢 伸幸

## 運営委員

上村 茂	小川 實	大国 英和	荻野廣太郎
神谷 哲郎	北村惣一郎	清沢 伸幸	四宮 敬介
鈴木 盛一	田村 時緒	内藤 泰顕	西岡 研哉
馬場 國藏	播磨 良一	伴 敏彦	広瀬 一
藤岡 義樹	藤原 久義	槇野征一郎	安居 資司
山城 国暉	山本 隆	横山 達郎	

## 顧問

川崎 富作 川島 康生 濱島 義博

## 事務局代表

神谷 哲郎

## 事務局

〒565 吹田市藤白台 5 - 7 - 1

国立循環器病センター 小児科 鈴木淳子

TEL 06-833-5012

## ——出席者へのお知らせとお願い——

### 1. 参加者へ

- (1)研究会開始時間は午後2時よりです。
- (2)研究会会場費は年会費に含まれております。  
なお、未入会の方は入会の程お願い致します。  
(年会費2,000円です)

### 2. 演題発表者へ

- (1)口演時間は特に制限をいたしません、討論を十分行ないたいと思いますので、6～7分をめどにお願い致します。
- (2)スライドは35%版用とし、一面のみの使用とします。
- (3)スライドは会場入場の際「スライド受付」にご提出下さい。

### 3. 口演者へのお願い

口演内容はProgress in Medicine 8月号(ライフ・サイエンス社)に掲載される予定ですので、次の要領にておまとめいただきたく存じます。

執筆要領：400字詰原稿用紙にて図表は別で8枚以内におまとめ下さい。また、200字以内の英文抄録を付して下さい。

原稿締切：昭和62年3月31日(後日、(株)ライフ・サイエンスよりあらためてご連絡致します)

問合せ先：(株)ライフ・サイエンス

西尾敏己

東京都渋谷区渋谷1-5-2 須藤ビル

TEL 03(407)8963

### 4. 懇親会

- (1)研究会終了後 17Fにて懇親会を開催致します
- (2)会費は2,000円です。

## プログラム

(座長) 榎野征一郎 (県立尼崎病院心臓センター) 2:00~2:35

- A-C bypass術待期中、川崎病再発と冠動脈狭窄の進行を認めた1幼児例

大阪大学医学部小児科 小川 實、佐野哲也、  
中島 徹、松下 亨、菅谷 太、藪内百治  
同 第一外科 広瀬 一、平中俊行、谷口和博、川島康生  
明和病院小児科 播磨良一、児島茂男

- A-C バイパス術後1年の経過観察

国立循環器病センター小児科 鈴木淳子、神谷哲郎  
同 心臓外科 八木原俊克  
和歌山大学医学部外科 内藤泰顕

- 川崎病発症後16年目で不整脈を契機に発見された陳旧性心筋梗塞の一例

京都府立医科大学小児科 浜岡建城、吉原隆夫、  
白石 公、中川雅夫、高 永煥、沢田 淳

(座長) 播磨良一 (明和病院小児科) 2:35~3:10

- 冠動脈瘤のない川崎病剖検例における冠動脈病変の病理組織学的検討

京都女子家政短期大学 藤原兌子  
京都大学第三内科 藤原久義  
同 病理学教室 濱島義博

- 小児におけるdipyridamole静注の電気生理学的影響

滋賀医科大学小児科  
藤関義樹、服部弘美、服部政憲、藤野英俊、島田司巳

- 川崎病は細菌感染症か？ウイルス感染症か？

——血清 ALP, LDH値の変動から——

伊丹公立学校共済組合近畿中央病院小児科  
有田耕司、福蔭章子、外川正夫

### <特別講演>

(座長) 沢田 淳 (京都府立医科大学小児科) 3:10~4:30

- 「病原ウイルス学の現在」

京都大学ウイルス研究所 日沼頼夫

(座長) 藤関義樹(滋賀医科大学小児科) 4:30~5:05

- 上行大動脈の瘤様拡大とその退縮を呈した川崎病の一例  
神戸市立中央市民病院 循環器センター小児科  
山川 勝、深谷 隆、富田安彦、馬場國藏
- 心筋イメージング所見が陽性で冠動脈造影で拡大のみを認めた症例  
国立循環器病センター小児科  
小野安夫、木幡 達、吉林宗夫、鈴木淳子、神谷哲郎
- 心膜液、胸水および腹水を伴いステロイド剤が有効であった川崎病の1例  
滋賀医科大学小児科  
服部弘美、青谷裕文、服部政憲、藤関義樹、島田司巳

(座長) 上村 茂(和歌山医科大学小児科) 5:05~5:40

- 急性期にDICを併発し冠動脈変化を残したMCLSの1例  
和歌山赤十字病院小児科 奥村光祥、瓦野昌治  
天理よろづ相談所病院 田村時緒
- 急性期に血小板減少、フィブリノーゲン低下を認めた川崎病の1例  
県立奈良病院小児科 安居資司、田中一郎、今中康文、足立憲彦
- 川崎病に麻痺性イレウスを合併した2症例——ヴェノピリン療法を中心として——  
和歌山県立医科大学小児科 鈴木啓之、上村 茂、根来博之、  
青柳憲幸、柏井健作、小池通夫

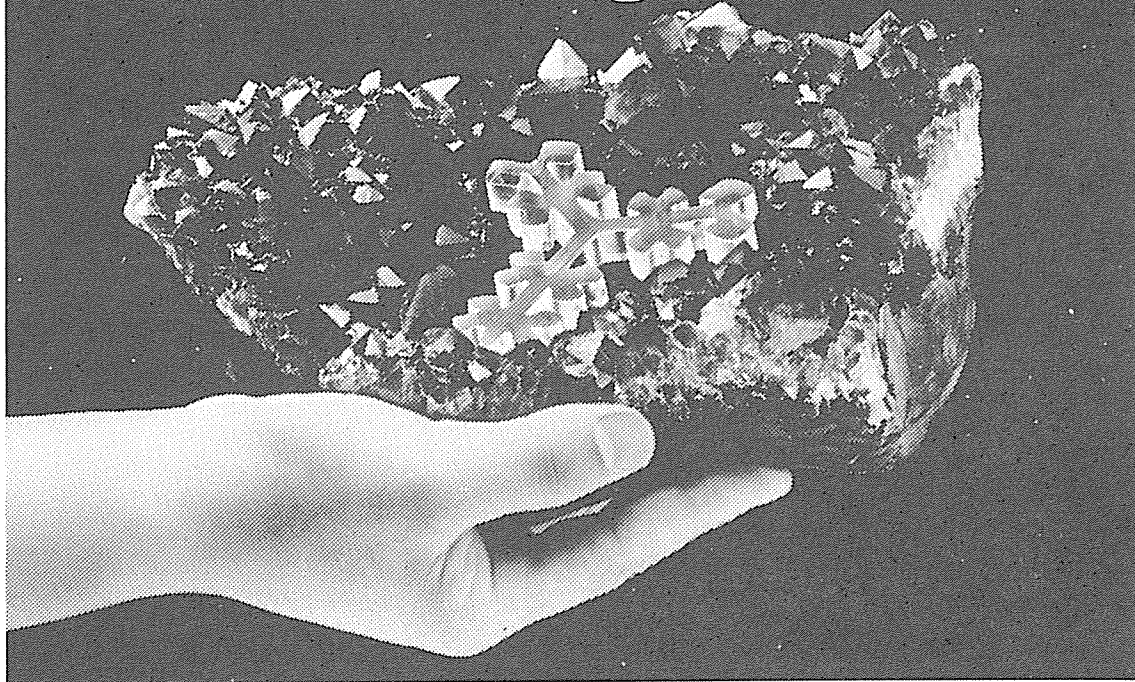
(座長) 西岡研哉(京都大学小児科) 5:40~6:15

- 川崎病冠動脈高度病変(3度)の発生予測についての検討  
静岡県立こども病院循環器科  
中野博行、上田 憲、斎藤彰博、土谷之紀
- 治療開始病日と冠動脈障害  
日本赤十字社医療センター小児科 藪部友良、和田尚弘、  
奥井雅人、後藤 亮、片岡 正、川崎富作
- $\gamma$ -グロブリン療法の川崎病冠動脈瘤予防効果と発熱について  
岐阜県立多治見病院小児科  
中野正大、島田靖子、上村 治、水口宏年、河辺義和  
浜松医療センター小児科 牧 紀衛

より安全に、より速く、

Venilon®

自然を研いたIgG。



静注用人免疫グロブリン製剤

 **ベニロン**®

〈乾燥スルホ化人免疫グロブリン〉(指)

■ 健保適用

1. 国産技術で開発された、Fcを保持している初めての完全分子型静注用免疫グロブリン製剤である。
2. 各種細菌、細菌毒素、ウイルスに対して広い抗体スペクトルを有する。
3. Fc活性に由来するオプソニン効果を有する。
4. 正常な補体の活性化にもとづく溶菌活性能を有する。
5. 血中半減期は長く約25日であり、持続性がすぐれている。
6. 低または無ガンマグロブリン血症に対する免疫グロブリンの補充療法に特に有用である。
7. 各種重症感染症に対し抗生物質との併用ですぐれた効果を示す。
8. 他剤が無効で、著明な出血傾向を伴うなどの特発性血小板減少性紫斑病に対し血小板増加効果を示す。

〔効能・効果〕 1. 低または無ガンマグロブリン血症  
2. 重症感染症における抗生物質との併用  
※3. 特発性血小板減少性紫斑病(他剤が無効で、著明な出血傾向があり、外科的処置または出産など一時的止血管理を必要とする場合)

〔包装〕 500mg、1,000mg、2,500mg  
溶剤(日局注射用蒸留水)添付  
●本剤の使用に際しては、製品添付文書をご参照ください。

販売

 **フジサワ**  
大阪市東区道修町4丁目3 千541

総発売元・販売

 **テイジン**  
医薬事業本部 東京都千代田区内幸町2丁目1-1 千100

製造元・販売

 **化血研**  
熊本県清水町大塚668 千860

®登録商標

※1985.4.改訂 S.60.4.作成:B51